

長崎を訪ねて

熊谷妙子(旧姓 小波)

小波魚青のこと

私は明治・大正の間、長崎を代表する四条派の画家として活躍した小波魚青の長男小波魚江の孫で、中学生の時、小波魚江の養女になりました。魚青は弘化元年(一八四四)四国宇和藩家老「小波嘯月」の三男として生まれ、若い時より同藩の画家、梶谷南海について画技を学び画家として「南洋」の名を戴いていたそうです。師の南海は若い頃十三年間、京都に住み四条派の祖呉春の門弟で花鳥を得意とした長谷川玉峰に師事されたそうです。

日本では古くから実名をみだりに呼んだり書いたりすることは憚られ、藩政時代の役所への届けも通称だけだったそうです。魚青は、盛春の実名はおろか、通称の呂行も使わず、当初は南洋を号し、後にこれを通称とし、戸籍制度ができた時にも南洋を届け出て、以後の画号としては主に魚青を用いたようです。

魚青が南海師に宇和島で画を学んだのは、二十歳頃からだったそうで、二十九歳の時(明治五年)旧宇和島藩土萩森伊三郎の娘愛子と結婚しています。明治十二年六月旧藩主伊達宗城公が前米国大統領グラント將軍夫妻一行を国賓として迎えることになり、其の従者の一人に魚青も選ばれたそうです。

この時魚青は長崎で席画を造りグラント將軍に献上したとの事です。以来、魚青は長崎伊良林一丁目に住み、



「梅に鶯」魚青 筆 (長崎純心大学博物館 蔵)

が嗅覚神経の再生を促し認知症の予防につながるという「バラ露」の研究で日本認知症予防学会より「浦上賞」を受けられたという事があります。我が国で「バラの花」を最初に植えたのは出島におけるシーボルトの植物園であった事と其の時代の手術の消毒はバラの露で、其のバラの露を最初に発案したのが平賀源内(宇和島藩士)であり、次の記述がある事を知りました。「物類品階」の「薔薇露」に、「紅毛語ロウズワートル」とあり、其の説明に「此の物ランビキを以て薔薇花を蒸して取りたる水なるものなり。」とありました。

現在、出島にも出島植物園があり、其処には一八二五年(文政八)シーボルトがラテン語で記した記念碑(県指定文化財)が建っていました。ケンベル、ツンベリ見られよ、ここに君らの植物、年ごとに緑をい花咲きいでて、植えたる主をしのびつつ愛の花輪をささぐ、

其のシーボルトとお瀧さんとの間に生まれ、日本最初の産科女医となった楠本イネを世話した人物は二宮敬作先生で、其の二宮先生も宇和島藩出身でシーボルトに師事、外科を専門としましたが、一八二八年(文政十一)シーボルト事件のため宇和島に帰り医学指導に尽くしています。

シーボルトは日本を去る時、娘イネの事を二宮先生に依頼していたのでイネは宇和島に行き二宮先生から医学の基礎を学び、明治三年二月東京築地に移り明治十年まで産科医を開業していました。しかし明治十年長崎に戻り銅座町で産院を開業していましたが、明治二十四年娘タダ(高子)一家と同居する為に長崎の産院を閉鎖し医者も完全に廃業して再上京しました。明治三十六年イネは東京麻布飯倉町で七十七才の生涯を閉じました。イネの墓は長崎寺町の禅宗皓台寺後山にある楠本家の墓地に母瀧と共に葬られています。其の横には恩師二宮先生の墓があります。

私は出島のバラに心をひかれて来ましたが、前述の川内教授が日本認知症予防学会で産学共同研究に着手され、高齢社会の問題に取り組んでおられます。私も微力ながらお手伝いしたいと思っています。

(諫早市出身 松江市在住)

風信

四月と言えば、入学式にはじまり、初出勤に開講式等と当に柳桜をこきまぜた春の錦となったようですね。

○長崎市の花は「オタクサ」とあり、シーボルトが日本の紫陽花を学会に発表する時に名づけた植物名であるという。其の名称はシーボルトの出島での

絵画の依頼も多く有名になり門人の数も増え、大正七年二月二日七十五歳で没し、墓は玉園町勸善寺後山にあります。其の間、明治二十四年五月には長崎にロシア皇太子ニコライ親王、ギリシア皇太子クロバークン將軍の来訪の事があり県知事は魚青の絵画を呈上、翌二十五年には宮内省が魚青の絵画二点を買い上げられたそうです。その魚青の代表作として今に知られているものとして麴屋町が「長崎くんち」の時に使用する傘鉾幕の下絵であったと林源吉先生は次のように記しておられます。麴屋町がくんち奉納踊後日に使用する傘鉾の幕は長崎名物の一つであつた。

魚青の長男は、胤雄といい明治九年三月六日宇和島に生まれ、父に伴われて長崎に来て以来、長崎の地で学校に行き、父に従って画を学び、十六歳(明治二十五年)の時描いた「鷹の絵」が高く評価され、画号「魚江」を父より送られ「日本画伯名鑑第一〇版・特別大家席」に記載されました。魚江の「鷹の絵」は父魚青の「虎の画」に次いで宮内省に収納されたそうです。そして、魚江の妹「島」が長崎小曾根家に嫁いだ縁で小曾根家と諫早の早田家との親戚関係もあつて、小波家は魚江の時に現在の諫早に移り諫早方面に日本画、華道、茶道等大いに地方文化の振興に貢献したようです。また、最近、坂本龍馬伝で有名になったとお聞きしている、伊良林の若宮神社内岩戸神社の天井絵は、魚青が弟子達と共に描いている物だそうです。

出島を訪ねて

最近、長崎市の国文化財の一つである、出島の復元が大いに進み、出島橋が復元されるとお聞きしたので、小波家とは縁の深い住友銅山を開山した住友家の方と一緒に出島の地を久しぶりに訪ねました。

今回、私が出島を訪ねた理由の一つは、現在、住んでおります島根県で島根大学医学部耳鼻咽喉科、川内秀之教授(日本鼻科学会理事長・雲仙市出身)が嗅覚の障害でアルツハイマー病がおきる事、又香りの刺激

愛人お滝さんに因んで名付けたものだと言われた事がある。

○シーボルトとお滝さんの事については、古賀十二郎先生の『丸山遊女と唐紅毛』(後編)に詳しく記してある。

○次に、それでは長崎市の木は何んですかと言われる。其の木は昔、唐船が長崎に持ち渡ってきた南京櫨だそうである。さすが長崎の草木、共に国際色がありますね。

○次に四月八日は「花まつり」お釈迦様の誕生日。長崎県には国指定の文化財の誕生佛はありませんが県指定文化財に誕生佛がある。其は高麗時代作の厳原大興寺の誕生佛と平戸最教寺の韓国李朝續帳誕生佛図がある。

其の他私は先年、壱岐芦辺町定光寺でも同種の高麗誕生佛を見せて戴いた事があるので、まだ県下には此の種の誕生佛が未発見で有るのではないかと考えている。

○城山小学校の「かよこ桜」も咲きましたね。本会の田中安次郎氏は全国各地に「かよこ桜」を植えられ、長崎の人達が平和を願う心を伝えられておられます。私も縁あつて、かよこ桜のお母様から「かよこの形見ですよ」と言われて丸山応挙作の大きな「雲龍図」を戴いたので純心大学博物館に林津江様の名前で寄贈させて頂き、「かよこ桜」も校庭に植えて戴いた。

○来月五月五日は「子供の日」。長崎県九條の会と本会協賛で恒例として「子供達にも平和の気持ちをも」という事で「親子で歩く長崎の街」を主題に毎年五月四日午前中、長崎の史跡を訪ねる事にしてきた。今年も第九回で今回は一六〇二年長崎で最初の石畳道と言われた八百町あたりより「山のサンタ・マリア教会跡」などを巡り、「子供達の茶会」に案内して下さる予定との事。詳しい事は後日発表される。

○明治三十四年長崎鎮西学院長を務められたH B シュワルツ牧師は一九〇八年(明治四一)、帰国後アメリカで出版されたIn Togo's Countryの第九章に「宝石の岸辺の町」と題し長崎の町を次のように記しておられる。

瓊の浦の名にふさわしい景観の町である。…然し時代と共に他の港が重要性を増すにつれ長崎の栄光は衰退している…然し港は安全に停泊できる事。石灰が豊富な事。ドックの設備が整っている事。長崎は有利な条件を備えている。…

一度読まれてみませんか。『薩摩国滞在記・宣教師の見た明治の日本』(新人物往来社・昭五九刊)

